

よりの正保三年十月送跡を居りき後

湯天守番に居りし

家譜 子孫拜  
湯の列に居り

岩佐

右助藤原某按 藤原某は清和源氏 伴良房

時右寛永 家傳 駿河一守 生方寛永 家傳 時右

今川氏真の侍り 後氏国信玄及び

勝頼に侍り 別嬪として勝頼齋に

拜せり家譜 某も氏真の侍り 仕へ寛永 家譜 まる

勝頼に侍り 勝頼滅亡の後湯方に

属し 慶長三年の事なり

東照宮よりけうまの里米地二百石を  
あまの<sup>家</sup>備後關原及び大坂並後  
湯陣に供奉す後

台徳院殿よりけうまの里米地  
備後守分長より屬して大番に  
寛永二年の死より

寛永二年二月廿一日

其子金丸の台徳院殿より

台徳院殿よりけうまの里<sup>家</sup>皆川

山城守の組より屬して大番に  
寛永十年の死より

百石の地を加へる寛永十年二月

常陸國信太郡のころより二百石を賜

つ<sup>家</sup>同十一年六月七日大坂城のち

よとて死す其子喜之郎に正

攝津より生る<sup>寛永</sup>寛永十一年七月

して送返すは二百石よりあまの

加恩の地二百石に収めしむる同廿年より

大番一列

家譜○今の小番清  
岩佐久多孫明祖

岩波

七市右衛門道能の姓氏詳なるのみ  
七市右衛門道定なるもの道定なるもの  
小佐子新二信房は仕一代永の家婦  
とらるる後流存して山縣三市を始  
り許し寓居しけり家婦代永と  
改めて岩波と稱し道能田斐を生れ  
くしめい大久保石見守長安より属し